あかしびと 107 号（夏季号）2023 年 7 月発行
日本バプテスト同盟金沢文庫キリスト教会
〒236-0046　横浜市金沢区釜利谷西 3-36-20　　tel/fax　045-783-5475
（牧師）森島牧人・森島惠　（協力牧師）並木裕忠
（教会）　church.kanazawabunko@gmail.com
（ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ）kanazawabunkochurch.sun.bindcloud.jp

「神と共に働く者」

コリント信徒への手紙Ⅱ6 章 1 節-10 節

森島　牧人 牧師

「わたしたちはまた、神の協力者としてあなたがたに勧めます。神からいただいた恵みを無駄にしてはいけません」。

この手紙を書いたパウロは、キリストの使徒の一人でありますが、彼は、神を信じる自分たちのことを、神の＜協力者＞と言っています。口語訳では、「神と共に働く者としてあなたがたに勧める」と訳していました。つまり、神を信じる者は、「神の働きをしている者だ」、そういう意味がこめられているのであります。

神のみ心を行なうということは、むろん楽なことではありません。自分がしたいと思うことをするのは、それほど苦しいことではないでしょう。自分が欲する方に歩いて行くことは、それほど辛いことではないはずです。しかし、神のみ心を行なうというのは、自分に逆らうようなことです。自分のしたいことに逆らう、あるいは、自分の望むことに逆らうという形でなければ、私たちは、神のみ心を行なうことはできないのです。ですから、もし、私たちが神のみ心を行なおうと思うならば、闘わなければなりません。さあ、大変です。どうしましょう。

しかし、「神の協力者」、「神と共に働く」という言葉には、別の意味もこめられています。つまり、人が神と共に働く、人が神の業に協力するという意味だけでなく、その働く人と共に、神が働いて下さるという意味です。人が神と働くというだけでなく、働く人と共に神が働いて下さる、という意味があるのです。

もしそうだとするならば、神を信じる者が働くということは、一人で頑張って働くというのではありません。神が共にいて働いて下さるということが、そこにあるからです。神を信じて生きるということは、そういうことではないかと思います。ですから、聖書の言葉は、「あらゆる場合に、神に仕える者として、その実を示しています。大いなる忍耐をもって、苦難、欠乏、行き詰まり、鞭打ち、監禁、暴動、労苦、不眠、飢餓においても、純真、知識、寛容、親切、聖霊、偽りのない愛、真理の言葉、神の力によって、そうしています」。

パウロはここで、自分の経験したことを言っています。経験したこと、あるいは自分たちが経験していることを数え上げています。苦難や、欠乏や、行きづまり、鞭打ち、監禁、暴動、労苦、不眠、飢餓、全部、彼が、経験していることです。しかし、その中で、パウロは、自分は、純真や知識や寛容や親切や聖霊や偽りのない愛、そう恵みの時、救いの日というものをもって、そうした困難の中を生きてきたと言うのです。神の力によって、そうすることができたと言っているのです。つまり信ずるゆえに、あえて労苦を担って行く時に、神は、その時々に、必要な力を与えてくださるという意味であります。

信仰の生活というものは、決して、頑張ってできるものでは、ありません。意志が強いから、信仰生活をまっとうできるなんてことはありません。踏みとどまるところで、神が支えてくださるから、信仰の生活をまっとうすることができるのです。踏みとどまる時に、そこで、神がいっしょに働いてくださる。神が力を添えてくださるから、わたしたちは、信じることができるのです。

毎日の、生活の中で、世の中に、いつも合わせておれば、安全であるかも知れません。あるいは、人々の群れの中に、いつも、もぐりこんで隠れておれば、いろいろな軋轢を、避けることもできるでしょう。しかし、そうやって逃げているかぎり、神の恵みは、私たちには分かりません。人々の群れの中に逃げこんでいるかぎり、そこで、私たちは、神の恵みを知ることはできません。自分の力や、自分の知恵で、自分を守っているかぎり、神の守りを知ることはできないのです。

「栄誉をうけるときも、辱めを受けるときも、悪評を浴びるときも、好評を博するときにもそうしているのです。わたしたちは、人を欺いているようでいて、誠実であり、人に知られていないようでいて、よく知られ、死にかかっているようで、このように生きており、罰せられているようで、殺されてはおらず、悲しんでいるようで、常に喜び、物乞いのようで、多くの人を富ませ、無一物のようで、すべてのものを所有しています」。自分たちは、悲しんでいるようであるけれども、喜んでいるのです。物乞（ものご）いのようだけれども、人に与えているのだと。無一物のようだけれども、人を富ませているのだと、彼はここで言います。それは、信ずる者の有様を、描いていると言ってもいいでしょう。

彼らは、世の力に対抗する、何物も持っていません。だから、いつも押されているように見えるのです。いつも、圧倒されているように見えるのです。世に対抗するための、力も富も、武器も何も持っていない姿で、彼らは、この世で生きています。まるで、弱者のように、貧しい者のように、自分たちは、生きているのだと、パウロは言っています。だけど同時に、その貧しさや、弱さのゆえに、何かを与えているのだと、言っているのです。物乞いのようだけれど、富んでいる、無一物だけれど、人々に与えているのだと、言うのであります。

世と世の力に対して、力をもって、闘って勝つことによって、何かを与えるというのではありません。世に、圧倒されている者であるかのように生きることによって、信仰者は、世に何かを与えている人間だと、言うのです。そういう形で、人々に何かを与えて行くのだと、彼は言うのです。

キリストは、弟子たちを、世に派遣する時に、言われました。「あなたがたを、遣わすのは、狼の群れの中に、羊を送り出すようなものだ」。おそらく、狼とは、世の、荒々しい力を、示しているでしょう。弟子を、世に送り出すのは、荒々しい力の中に、出すようなものだと、言われたのです。狼に、対抗する、武器を、彼らは、何も、持っていません。ただ、羊の姿で、彼らは、出て行くのです。

そして、弟子たちが、狼の中で、羊として生きる時に、神が、支えてくださる。厳しい状況の中で、羊として生きぬく時に、神が、彼らを守ってくださる。弟子たちは、そうやって、神の救いというものを、身をもって知るのだし、身をもって証しするのです。

私たちが、この世の力をもって勝ったとしても、何も証ししているわけではありません。この世の意地悪に対しては、仕返しをしても、私たちは何もしているのではありません。私たちは、羊の姿で、神の栄光を現わすのです。キリストの弟子というものは、それ以外の仕方で、神の力を知ることはできません。

羊として、生きて行くことが、私たちの証しであります。羊として歩いて行く、そのことを通して、人々に何かを与えることができるのです。羊が、狼の中で生きるためには、神に祈りながら、生きるしかないのです。否、そう、祈りだけでは不十分。キリストの弟子として生きる時、祈りが与えられるのです。そうやって祈りながら、神に支えられながら、ただそれだけで生きていくということ、そのことによって、神を証しするのです。

だから、パウロはここでこう言っているのです。「悲しんでいるようで、常に喜び、物乞いのようで、多くの人を富ませ、無一物のようで、すべてのものを所有しています」と。

。

目　　次

「神と共に働く者」（牧師）森島 牧人　p.1
「信　仰　歴」　（協力牧師）　並木 裕忠　p.4
「感謝と信頼の徴」白根 義輝 p.6
「思い出の賛美歌ふれて」　梅谷 道子 p.10
「神様の導き」上野彩愛　p.11
「４５年ぶりの不思議な出会い」　白井 豊子　p.13
「ガン患者としての日々　･･･　数えてみよ 主の恵み」　犬塚志朗　p.14
２０２３年６月１８日　金沢文庫キリスト教会　懇談会　p.16
テーマ：近隣との交流
教会学校　p.18
「水曜集会」　羽入田 毅　p.22
教会木曜集会　p.23

「信　仰　歴」

（協力牧師）　並木 裕忠

私は１９５９年、昭和３４年、８月１７日、東京の江東区で生まれました。その年は、日本におけるプロテスタントの宣教１００年の年だったそうです。ちなみに、天皇陛下と同学年です。

母は、結婚前から日本ホーリネス教団上野教会の会員でしたので、私の小さい頃、連れて行ってもらった記憶があります。私をキリスト教主義の幼稚園に入れたいという母の願いもあり、家に近かった日本バプテスト同盟大島新生教会の幼稚園に入園しました。それとほぼ同時に、母は大島新生教会に転籍しました。私は入園すると、すぐ教会学校にも通うようになり、教会生活が始まりました。

高校一年生の時、バプテスマを受けました。ただし、バプテスマ準備会もなく、信仰理解が少ないままバプテスマを授けられました。その反省から、牧師になってのち、バプテスマ志願者にはバプテスマ準備会を受けてもらい、キリストの十字架によって、自分の罪が赦されたことを自分の言葉

で告白して頂いています。

高校生になってからは、教会学校のお手伝いをし、その後、教会学校の教師もさせて頂きました。

３２歳の時、現在の日本バプテスト神学校の前進である宣教研修所に入り、伝道者になるよう召命を受けました。翌１９９２年４月に宣教研修所に入学しました。そこでは、森島牧人先生から、キリスト教会の歴史を教えて頂きました。１９９３年度には、森島恵先生が主任でいらした霞ケ丘教会の神学生として実習させて頂き、お世話になりました。その年、森島恵先生は按手礼を受けられました。翌年の１９９４年度には、金沢文庫教会の神学生として実習させて頂き、白根新治先生、教会の皆さまのお世話になりました。２月には、阪神淡路大震災のボランティアとして、金沢文庫教会から送り出して頂きました。

宣教研修所卒業後は、大島新生教会の伝道師をさせて頂きながら、白根先生、森島先生ご夫妻も学ばれた東京神学大学に編入学し、学びを続けました。

卒業後、２０００年４月から杉並中通教会の伝道師に就任し、翌年、按手礼を受けました。２００４年には日本バプテスト厚木教会の牧師となり、２０１９年３月までの１５年間厚木で伝道牧会させて頂きました。

その後、４年間、日本キリスト教団 玉川教会で信徒として教会生活を送ってきました。

そして、本日、金沢文庫キリスト教会に転入会させて頂きました。どうぞ、よろしくお願い致します。

2023年4月2日並木
裕忠協力牧師就任式

「感謝と信頼の徴」

白根 義輝

コリントの信徒への手紙二 09 章 07 節　各自、不承不承ではなく、強制されてでもなく、こうしようと心に決めたとおりにしなさい。喜んで与える人を神は愛してくださるからです。

26 歳の時，母に誘われて金沢公会堂の伝道集会に行きました。その頃の私は時間がある時は礼拝に出席していましたし少なからずキリスト教に関心はありました。

牧師の話が終わり，「イエスを心に迎え入れる人は前に来てください。」と招きがありました。その時，どうしても前に行かなければならないと心に訴える強い力が働きました。自然に席を立ち，歩き始めていました。そしてイエス様を信じて生きていこうと決心しました。（資料①をご覧ください）聖霊の働きがあったとしか思えません。その後，父の白根牧師から洗礼を受けました。皆さんも一人ひとり受洗を決意したドラマがあると思います。洗礼を受けてからどんなことをしていても喜びに満たされていました。嬉しくて嬉しくてしょうがなかったのです。

やがて教会学校を手伝うようになり，イエス様のお話を伝える喜びを知りました。この喜びを仕事にできたらいいと思いキリスト教主義学校の先生になるという幻が与えられました。

その当時，土木施工管理の資格を取り，土木の設計事務所で働いており，横須賀の米軍基地に派遣されていました。その頃，久保田さんもその現場にいらっしゃったそうです。土木と建築では接点が殆どありませんでしたので残念ながら面識はありませんでした。

小学校教師の資格がありませんので，そこからがスタートです。現在はありませんが大船の京浜女子大学（現在の鎌倉女子大学）の聴講生課程 1 年コースに入学しました。

忙しい職場でしたが，４時になったら学校に行ってもいいと許可がおりました。竣工検査の前は特に忙しいので，９時頃授業が終わるとその足で横須賀に戻って仕事をしました。明け方になると厚さ 1 センチほどの図面帳を床に並べて寝たのもいい思い出です。

年が明け，1 月に卒業式を控えているにも関わらず奉職する学校がまだ決まっていませんでした。設計事務所からはそのまま継続して働いてほしいと言われていたので，あせりはありませんでした。捜真小学校に履歴書を出し面接を受けましたが社会科専門の教師になって欲しいと言われたので残念ながらお断りしました。

教師になってから分かったことですが，就職希望者は 4 月に履歴書を送ってきます。また，定年退職以外で辞める教師は，なるべく早めに遅くとも 12 月までに申し出ることになっています。

ですから 1 月に就職先が決まっていないということは，４月から教師になる夢は諦めなければなりませんでした。

そんな折，母から，成美学園小学校で働けるかもという電話がありました。父が小学校の教師をしていた関係で他校の校長に息子が教師になりたいので空きがあったらお願いしますと頼んでいた

そうです。
　よくよく母から話を聞くと，聖書の先生ということでした。
専門に聖書の勉強をしたことがなく，洗礼を受けて1年しか経っていませんでしたのでびっくり仰天でした。履歴書を大急ぎで書き面接を受けました。すると教頭が2月に聖書の
　先生が牧師になるので急にお辞めになるとのことでした。そこで私に声がかかったわけです。
　聖書の勉強をしたこともなく自信がありませんと教頭に伝えると，来年度で定年になる先生がいるので1年間だけやってほしい，その後は担任にすると言われました。母に報告するとお給料を貰って聖書の勉強ができるなんて神様の恵みじゃない，と気楽に励まされました。
　遅咲きの教師になった1年間ほど聖書を読んだことはありませんでした。
　後日聞いた話ですが牧師の義兄が成美学園に対して，きちんと聖書を学んだことがないのに採用するなんていい加減な学校だと怒っていたそうです。また当時の教頭が，牧師の子供なら悪いことはしないだろうという理由で採用したそうです。
　28歳から65歳までの38年間，信仰と健康が支えられて奉職し家族を養い二人の子供を無事育てることができました。すべてが感謝です。この感謝の徴として献金したいと思った時新会堂建築の計画が具体的になり献金をするチャンスとなりました。

　さて，「聖霊に導かれて恵みによってクリスチャンになった証」の後ですが，生々しいお金の話をしたいと思います。2017 年度の責任役員会で教会学校担当から会計担当にコンバートされました。何も会計の知識がなく献金を数えて銀行に預ける仕事ぐらいに思っていましたが私にとって複雑な内容でした。その後犬塚先生に手取り足取り教えていただき，どうにかこうにかできるようになりました。
　しかし，年度末が近づくとだんだん頭が痛くなります。収入が支出より多ければ問題ありませんが収入＝献金です。それ以外は年間 100 円に満たない利息と私的なコピー機使用料と電話使用料のみです。多いのか少ないのか分かりませんが，例年 400 万円強の収入があります。支出も 400 万円ぐらいですのでギリギリです。冷暖房などの光熱水費や通信費，牧師謝儀などどうしても削れない維持費があります。
400 万円を 20 名位の教会員で支えなければなりません。
　思い返すと教会財政や献金について学んだことがありませんでした。なおざりにしていたわけではありませんが，特に考えたことがないので一念発起して勉強しました。
　まず献金とは、「神に対する感謝と信頼を表すこと」
　「会費・寄付金」と違うのは会費や寄付金は、心が伴わなくても、いわばお金を出しさえすればそれでよいわけです。
　また，献金の意味を知る上で最も大切な価値観は、「私たちが持っているものはすべて神から与えられたもの」であるということです。
　（資料②をご覧ください）よく知っている聖句から考えると神様と富が並列に書かれています。分かりやすいように，富をお金に置き換えてお話ししますと，お金は神様に匹敵するだけの力をもっていることが分かります。魅力があります。お金がなければ生活が成り立ちません。

そこで仕事を持ち給料を稼ぎ家族を養います。労働の対価としていただくのです。決してお金に仕えているわけではありません。

特殊詐欺をやる人はお金を主人とした典型です。老人や母親など家族の愛情に付け込んでお金をだまし取る，自分にお金が入りさえすれば他の人がどんなに困ろうと知ったこっちゃない，まさに金の亡者です。

聖書を何回か通読しましたが読むたびに心に突き刺さる御言葉が違います。先ほど牧師謝儀を必要経費扱いしましたがとんでもない間違いだと分かる御言葉に出会いました。(資料③④をご覧ください)

教会員が霊の導き手である牧師の生活を支えるのは当然だと分かりました。

インターネットで「献金」を調べるとクリスチャンは教会運営を支える大切な月定献金（十分の一献金）をささげると書いてありました。驚きました！私は年金で細々と生活しているし，それに食品等の値段が軒並み上がっている昨今です。正直大丈夫かなと不安を覚えました。(資料⑤をご覧ください) それでも十分の一を神様にささげるなら、それ以上の祝福で満たすと約束されています。
イエス様が荒れ野で悪魔から誘惑を受けた場面で「あなたの神を試してならない」とおっしゃって悪魔の誘惑をはねのけました。これは、「神を試してはならない」という聖書の教えの唯一の例外だそうです。献金という形で本気で神様への信頼を表すならば、神様も本気で私たちを祝福してくださるとチャレンジを受けています。
そのチャレンジを受けて十分の一献金をしようと決意しました。(資料⑥をご覧ください)「十分の一の献げものもおろそかにしてはならない」とイエス様もおっしゃいました。

私は毎日，朝，聖書を読むと決めていますが家の中で汚れているところに気が付きついつい掃除を始めてしまい，次から次と洗濯やらトイレ掃除などが浮かんできて結局後回しになってしまいます。同じように献金も最初に月定献金を分けておかないと，普段の日常生活が始まると瞬く間に残り少なくなっていきます。ですから，選り分けておいて月初めに献げる必要があります。

献金は自分のものを神に差し出すのではなく、神からいただいた全てのものの一部をお返しすることです。

献金は、「私を養うのは、他の何ものでもなく、神である」という、神に対する信頼の表明です。

私たちの生活を支える基盤は経済力であると思ってしまいます。お金が少なくなってくると、どうしても不安になってしまいますけれども、イエス様は言われました。(資料⑦⑧をご覧ください)

イスラエル民族が圧制に苦しめられてエジプトを去って荒れ野を旅している時，40 年に亘って天からマナというパンを降らせました。【参考①】また預言者エリヤにカラスを遣ってパンと肉を運ばせて養いました。神様は必要なものを備えてくださいます。【参考②】

神様への信頼を表すとき、生活の不安から解放されて、神様に委ねて生きる自由を体験することができると思います。

献金も大事だが神様に信頼する，より頼む信仰が出発点だということを分かち合いたいと思い証をさせていただきました。

「感謝と信頼の徴」資料

コリントの信徒への手紙二/ 09 章 07 節
各自、不承不承ではなく、強制されてでもなく、こうしようと心に決めたとおりにしなさい。喜んで与える人を神は愛してくださるからです。

（資料①）1:コリントの信徒への手紙一/ 12 章 03 節
ここであなたがたに言っておきたい。神の霊によって語る人は、だれも「イエスは神から見捨てられよ」とは言わないし、また、**聖霊によらなければ、だれも「イエスは主である」とは言えないのです。**

（資料②）1:マタイによる福音書/ 06 章 24 節
「だれも、二人の主人に仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛するか、一方に親しんで他方を軽んじるか、どちらかである。あなたがたは、**神と富とに仕えることはできない。**」

【参考】マタイによる福音書/ 06 章 19 節
「あなたがたは**地上に富を積んではならない**。そこでは、虫が食ったり、さび付いたりするし、また、盗人が忍び込んで盗み出したりする。」
20 節富は、天に積みなさい。そこでは、虫が食うことも、さび付くこともなく、また、盗人が忍び込むことも盗み出すこともない。

資料③）ローマの信徒への手紙/ 15 章 27 節
彼らは喜んで同意しましたが、実はそうする義務もあるのです。異邦人はその人たちの**霊的なものにあずかったのですから、肉のもので彼らを助ける義務があります。**
（資料④）コリントの信徒への手紙一/ 09 章 11 節
わたしたちがあなたがたに**霊的なものを蒔いた**のなら、あなたがたから**肉のものを刈り取る**ことは、行き過ぎでしょうか。
（資料⑤）マラキ書/ 03 章 10 節
十分の一の献げ物をすべて倉に運び／わたしの家に食物があるようにせよ。これによって、**わたしを試してみよ**と／万軍の主は言われる。必ず、わたしはあなたたちのために／天の窓を開き／**祝福を限りなく注ぐであろう。**

（資料⑥）ルカによる福音書/ 11 章 42 節
それにしても、あなたたちファリサイ派の人々は不幸だ。薄荷や芸香やあらゆる野菜の十分の一は献げるが、正義の実行と神への愛はおろそかにしているからだ。これこそ行うべきことである。もとより、**十分の一の献げ物もおろそかにしてはならないが。**

（資料⑦）マタイによる福音書/ 06 章 25 節

「だから、言っておく。自分の命のことで何を食べようか何を飲もうかと、また自分の体のことで何を着ようかと思い悩むな。命は食べ物よりも大切であり、体は衣服よりも大切ではないか。

（資料⑧）マタイによる福音書/ 06 章 33 節
何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。

【参考①】出エジプト記/ 16 章 12 節
「わたしは、イスラエルの人々の不平を聞いた。彼らに伝えるがよい。『あなたたちは夕暮れには肉を食べ、朝にはパンを食べて満腹する。あなたたちはこうして、わたしがあなたたちの神、主であることを知るようになる』と。」

【参考②】列王記上/ 17 章 06 節
数羽の烏が彼に、朝、パンと肉を、また夕べにも、パンと肉を運んで来た。水はその川から飲んだ。

「思い出の賛美歌ふれて」

梅谷 道子

平日水曜日のキリスト教入門の勉強会に、一員として得 6 月 21 日も出席できました。この会は森島牧人牧師が導いて下さっています。開会の最初の賛美歌を歌います。この日は讃美歌 21 の 533 番でした。

歌詞を見たとたんに「知ってる !!」そして歌い始めると「よく歌った !!」と驚きました。住まいがここではなかったので、ずいぶん以前だったと懐かしさいっぱいでした。

賛美の内容は、辛いことがあっても、幸せが欲しくても「イエス様の愛を信じてくじけるな!!」ということでした。

過去にはつらいことも少しはあったが、楽しいこといっぱいの私でした。でもここ数年は自分自身に対して腹の立つこと、悔いること、なさけないことが沢山あって悩むことが多い。それをついお忙しい牧人牧師、恵牧師、並木牧師にボヤクと叱って下さり、励ました下さったりして下さいます。会員の中にも何人か助けて下さっている方がいらっしゃいます。

この教会員になってお世話になった白根新治牧師は、その頃ちょっとしたお役をさせていただいていた私が失敗を申し出て謝るととぼけて調子で、「そんなことシラネーなぁ」と知らん顔なさったと何回か思い出します。

皆様からのお返事はこの賛美歌通り神様にとりついて下さるイエス様の愛を信じることですね。またショゲルことが続いたら、この賛美歌を歌って立ち直るように頑張りますね。

編集委員(犬塚)から讃美歌 21 の 533 番についてひとこと

「作詞：髙橋順子 1959―1967」7 歳で神様のもとに召されました。作曲：高浪晋一先生（梅谷道子姉の所属したバプテストヒムフレンドの指導者でもありました）

1　どんなときでも、どんなときでも、
　苦しみにまけず、くじけてはならない。
　イェスさまの、イェスさまの
　愛を信じて。

2　どんなときでも、どんなときでも、
　しあわせをのぞみ、くじけてはならない。
　イェスさまの、イェスさまの
　愛があるから。

「神様の導き」

上野 彩愛

私がキリスト教に出会ったのは、捜真女学校に入学した 2019 年 4 月 6 日でした。

初めてキリスト教に触れ、私は何か神秘的で、惹かれるものを感じました。今振り返れば、これも神様のお導きの一つだったと思います。

そして、私は 2019 年 4 月 21 日のイースター礼拝の日に初めて教会に行きました。学校で出された教会に行こうという課題のため教会に来ました。

普段から学校で行っている礼拝とは違う雰囲気に包まれて行われる礼拝に圧倒されました。

その日はバプテスマがあり、生まれて初めて教会に行った日に、生まれて初めてバプテスマに同席させていただくということは、当時の私は、それを運命のように感じていました。これも神様のお導きの一つだったと思います。

その後、新型コロナウイルスの影響により、教会にも、学校にも行けなくなり、神様の言葉を聞く機会が減ってしまいました。

新型コロナウイルスが私たちの生活を壊してしまうと思うと不安で心が潰されそうになったときに久しぶりに学校で礼拝が行われ、先生方がコリントの信徒への手紙一の「神は真実である。あなた方を耐えられないような試練に遭わせることはないばかりか、試練と同時に、それに耐えられるように、逃れる道もそなえてくださるのである」という、イエス様が伝えてくれた言葉を私たちに伝えてくれました。今でもその言葉は私の信仰の土台の一つであります。

この時から私はキリスト教についてよく考えるようになりました。そして、高校一年生の 11 月位から三回連続で、全く違う人から同じ聖書箇所を聞くという出来事が起きました。そのことに驚いたことと同時に、私がその時期に心に留めていた想いとも重なり、神様はいつも私に必要なものを与えて下さるのだと思いました。

私は、現在生徒会長という立場で、学校生活でご奉仕しています。その役職において、今年の 3 月から 4 月にかけて起こった難題に、自信がなくなり、酷い言葉を交わされ、私なんかいなければいいのに、と思うほど、極限までに落ちこんでしまうことがありました。

ですが、そんな時でも、毎日学校で行う礼拝や、教会での礼拝で、聖書の言葉を聞き、その言葉は、私自身の心の支えとなり、今こうしてこの場に立っています。

この時の私にとって、礼拝の時間は唯一心安らかに入れる時間であり、聖書の言葉は私の支えとなり、神様は、いつでも私のそばにいるという安心感を覚えました。

この出来事があり、私は神さまを感じ、いつも私の軸となっているのだから、洗礼を受け神様の子になろうと決意しました。

私の好きな聖書箇所であり、私の土台となっている聖書箇所をご紹介します。

ルカ福音書 10 章 25～37 節　善きサマリア人の例えです。

この箇所で、私もこのようになりたいと思った部分を読ませていただきます。

「ところが、旅をしていたあるサマリア人は、そばに来ると、その人を見て憐れに思い、近寄って着ずに油と葡萄酒楚注ぎ、包帯をして、自分のロバに乗せ、宿に連れていって介抱した。そして、翌日になるとデナリオン銀貨を 2 枚取り出し、宿屋の主人に渡して言った。『この人を介抱してください。費用がもっとかかったら、帰りがけに払います』」

私は聖書を開くたびに、この聖書箇所を読んでいました。よきサマリア人のように見知らずの人に対して全力で助けることができ、隣人を自分のように愛せる人になりたいと思っています。

今まで神様からいただいたたくさんのタラントンを私の周りの人にも分け与えられるようになりたいです。

5 月 28 日（日）ペンテコステ礼拝での信仰告白式とバプテスマ

「４５年ぶりの不思議な出会い」

白井 豊子

広尾駅改札の前、私に向かってさっと手をあげた、目の大きな美人。45 年前のおもかげがあった。

７月１日　鈴木シスター講話会が聖心女子大で行われた。それに合わせて待ち合わせたのだ。私が教員として初任の時、宮城県川崎小学校で一年、二年と受け持った子なのだ。その子は京子ちゃんといい、隣りの席の正美君と一緒に心に残る子だ。読み聞かせで「かわいそうな象」の話をしていた時、正美君がおいおいと泣き出した。それを見た京子ちゃんは、すかさずきれいなハンカチを正

美君に差し出したのだ。

今、半世紀近くたって、こうして会えたことをお互いに「神様の導きだね」と喜びあった。この出会いは恵先生から二年前、問い合わせがあったことに端を発している。恵先生の友人と京子ちゃんは知り合いだった。その関係で京子ちゃんは恵先生に二回合い、金沢文庫キリスト教会を知ったとう言う。ネットで文庫教会をみていたら、私が腹話術する姿を見つけて、恵先生に問い合わせたのだそうだ。

人の出会いとは不思議なものだ。45 年前のことを懐かしく語り合った。京子ちゃんは一、二年の頃どんなに楽しい体験をさせてもらったか思い起こすと言って語ってくれた。

クッキー作り、竹やぶに入って竹を切り出して竹馬作りをして遊んだこと。粘土採集に出かけ、飼育しているうさぎ三羽を教室に連れて来て、取り囲みながら絵を描き、粘土で大きくうさぎを作ったこと。学校の裏山で、ツルでターザンごっこをした事。それらを聞き、危なっかしいと思うようなことを一緒に楽しんでやった時だったと私も懐かしく思い出した。

私は当時朝礼で、お行儀よく校長のつまらない話を聞かせ、全校児童が兵隊の如く行進させるのを快く感じなかった。だから私のクラスは整然とはならなかった。それを見て校長は統率されてないと判断し「一年から二年への持ち上がりは難しい」と私に語った。翌日私は校長に「話があります」と言って、次のように言った。「我がクラスは一見まとまりがない様に見えるかもしれません。しかし大切な時子供らしい力を発揮してまとまります。けっしてまとまりがないわけではありません。見守ってください」と、ある種の自信をもって語った。その結果一,二年と持たせて頂き、自由な教育をやらせてもらえたのだ。

京子ちゃんのお母様は、私が当時書いた通知票、名札、賀状などを整理してくれていた。そのコピーを見せて頂き、当時京子ちゃんは歌の指揮をしたり、友達の世話をしたり、文を書いたりするなど、やさしいお姉さん的リーダーだったと分かった。その良さがそのまま伸ばされ大人になったのだ。

7 月 1 日別れ際に京子ちゃんは私に「自分史を書いて下さい。パソコンで印刷する役目をするので」と言ってくれた。感謝。

ガン患者としての日々　･･･　数えてみよ 主の恵み

犬塚 志朗

父は 46 歳で胃癌で逝去、一学年上の兄は 67 歳で同じく胃癌で逝去、そして傘寿を迎えた私はと言えば、今ガン・サヴァイヴァー（癌+survivor）として生存、よく言えば神様から与えられた試練

かも、と思います。(そう言えば水曜日のキリスト教入門講座で「自慢してはならない、謙虚に生きろ！自分が一番愚か者として生きる」を学びました。悲しみは消え始めました。いや、ほんのささやかな出来事に感動を覚え、天国が近くに感じられるようになりました。

私は丘の上の教会に自転車を漕ぎながら主日礼拝や週日集会に通っています。約 1 時間半かかりますが、その間途中行き交う全く未知の人たちに感動させられることがあります。

ある朝トンネル内の細い歩道を自転車のペダルをこいていると反対側から父親が「電動自転車（親子三人乗り＝ハンドルの上のシートに一人（妹)、後部シートに一人（兄)」子ども二人を乗せてペダルをこいで、対面すれ違いとしてやって来るのに出会いました。なにしろトンネル内でしかも細い歩道上では互いにすれ違おうとするのが難しく、自転車を降りて進もうとすると、身体の巾分邪魔になりますので、自転車に跨(また)いだまま、コツコツと足を道路に突きながら、ゆっくり、ゆっくりすれ違おうとします。あと一歩というところで後ろに乗ってる園児（兄）と目線があい、「お早う！」と声をかけた。ら、大きな声で「お早うございま〜す」との明るい返事、そしてすぐに背後から反射的にもう一人の園児（妹）も「お早うございま〜す」と、大きな声で兄と同じ口調で背後から声が聞こえました。二人の園児の大きな声がトンネル内にこだまして響きました。父親は自転車にまたいで必死に倒れないように前に進もうとして無言でしたが、その天真爛漫な幸せそうな兄妹の明るい声が心に残っています。

また別の日、細めの体系の老女性がスポーツウェア着用（黒のタイツの上に膝まで届く長めのレディース半ズボンを履いて）歩道の上で体操をしていました。通りすがりに自転車上から私が「元気そうでいいですねっ！」と声がけたら、ニッコリ微笑み、手を振りながら「行ってらっしゃ〜ぁい！気をつけてぇー！」と大きな声で返事、いつまでも私に手を振っているのが自転車のバックミラーに映っていました。まったく見知らぬ女性との一期一会でした。

国道 16 線沿いの歩道では私に手を振りながら「お早うございます！行ってらっしゃ〜い‼」と大きく両手を振りながら声掛けする人もいます。また丘の上の教会近くの路上では、運動も兼ねて重い電動自転車に電源を入れずに約 20 分間押して登ります。が、そこで行き交う人々からの挨拶の声もかかります。世間話で弾むことがあります。何をしているのか、なぜそうしているのか、懇切丁寧な説明つきで･･･。お互いに老いてくるとお互いに心が引き合うのを感じます。

世界に眼を向ければ至る所で、核戦争だの、地球温暖化だの、線状降水帯だの、大地震だの･･･、不安を煽る現象があちらこちらで弾んでいます。そんな中、教会近くの住人との心の交流、私の心も温まってきます。

10 年前は、茨城県の田舎に宿泊可能な小屋付き土地まで小型二輪バイクで 160km の道程を約 6 時間かけて出かけたものです。四季折々の大自然に囲まれた美を満喫しながら、途中出あう人々との心の触れ合い･･･。まるで天国に住んでいるぅ･･･と。

あれもできなくなった、これもできなくなった、とマイナス面ばかり思い始めた今、傘寿を迎えた今、やっと地元の身近な四季の織り成す自然の美を発見し始めました。そして、自分に残されている神様から与えられている才能を活かすことができればと願い始めました。

聖歌６０４番

望みも消え行(ゆ)くまでに
世の嵐に悩むとき
数えてみよ主の恵み
汝(な)が心は安きを得ん
数えよ主の恵み

数えよ主の恵み
数えよ一つずつ
数えてみよ主の恵み

「だから、私たちは落胆しません。たとえわたしたちの『外なる人』は衰えていくとしても、わたしたちの『内なる人』は日々新たにされていきます」コリント二 4：16

今年の私たちの教会の年間主題は**「安らかに信頼していることにこそ力がある」　イザヤ書 3：15**
幼児のような純真な信仰不足から不安に煽られます

＊美しい紅葉の条件は気温の急激な低下だそうです。人生の秋における輝き、喜びだけでなく悲しみや苦しみがあるからこそ、いっそう深みを増し、その人ならではの色合いではないでしょうか
（生き方の質の転換を･･･心の友 2023 年 6 月号から記事抜粋）
＊この世は万事表があれば裏がある。光があれば闇がある。そしてその闇の中にこそ光る真がある
（テレビドラマ七人の秘書のセリフ）

２０２３年６月１８日　金沢文庫キリスト教会　懇談会
テーマ：近隣との交流

Ａグループからの提案

提案１
　既に、教会近隣に何度も教会案内を配布しているが、礼拝堂でチャペルコンサートを開くこととし、その案内のチラシを配ることで、改めて教会案内をする。
提案２
　最近、何人もの子どもたちが、お母さんと一緒に教会学校に出席してくれているので、子どもたちが友達を誘い、保護者の方たちも一緒に来てもらえるようなプログラムを行う。(クリスマス会など)
提案３

通常のクリスマス礼拝の他に、初めて教会に来る方たち向けのクリスマスの催しを行う。

提案４

近隣の方々に、軽食、お菓子、お花や物品等々を、安く提供する。

提案５

エルピス、教会学校の子どもとお母さん、トーンチャイム・クワイヤー等々が演奏や賛美をするファミリーコンサートを開く。教会員の方が家族を誘ったり、教会学校の子どもたちが保護者や友達を誘ったりして、共に楽しいひとときを過ごす。

Ｂグループからの提案

Ⅰ　教会内での　活動

１．大学生、高校生の教会員に活動の場（教会内）を作り、若者のグループを作って行く。（高校・大学生教会員に相談）
　　展開によっては、関東学院、捜真の学生も参加

２．ちらし作り　（若年教会員にも相談）

Ⅱ　教会外への活動

１．自宅の向こう三軒両隣に教会へのお誘い（ちらしを作って）。（クリスマス、イースターなど）

２．夏（秋、など）祭り、バザー（フリーマーケット）を実施。１００円カレー提供
　　教会学校保護者共催

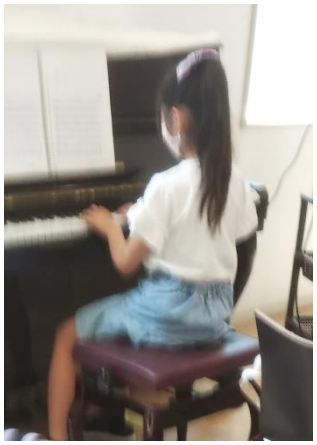
３．音楽祭り（エルピス、トーンチャイムなど）、教会学校保護者共催

金沢文庫キリスト教会は、6 月 18 日（日）に、2023 年度前期教会懇談会を開催しました。今年度の教会の年間主題は、「安らかに信頼していることこそ、力がある。」（イザヤ 30：15）です。また今回の懇談会テーマは、「近隣との交流」です。今回の懇談会でもアイスブレイク・ブレインストーミング・KJ 法を用いました。

教会学校

「現在、金沢文庫教会学校は、毎週日曜日、9 時から始まります。夏休み、冬休みはあります。
男子 8 名、女子 5 名の 13 名ですが、兄弟姉妹が一緒に出席する場合もあり、賑やかです。
奏楽は、子供たちとお母さまが交代でご奉仕してくださっています。
司式も、献金のご奉仕も、積極的に子供たちがしてくれます。

礼拝後の分級は、プログラムに沿って、子供たちの興味がわくものを選んでいます。年齢は 3 歳から、小学校高学年までですが、皆な仲良くしています。



進級式

分級

CS 保護者の奏楽

イースター礼拝

教会学校ペンテコステ礼拝

かなぶんしんぶん

2023ねん4がつ
第8号
発行　金沢文庫教会
石川万奈美

教会学校の
みなさん、
進級おめでとう
ございます。
もう、あたらしいおともだち
もできて たのしい生活が
スタートしているとおもいます。
さあ！また、がんばり
ましょう。

教会学校新聞

教会学校でも、奏楽してくれる おともだちや、司式を
がんばってくれる おともだちが ふえました。すばらしいことですね。
あたらしく来てくれた おともだちや、きょうだいも いて、
にぎやかになりました。
また、並木先生も いてくださり、心強いですね。
まだ、おはなし していない人が いたら、ぜひ、じこしょうかい
してみませんか？　きっと もっと もっと仲良しになれますよ。

おしらせ

めぐみ先生も退院されて、今は、おうちで
リハビリをしたり、ゆっくりして、はやく みなさん
にあえるように がんばっています。
はやく よくなって 1日もはやく 教会学校
であえるように おいのりしてください。
西山せんせいも、体の調子がいい時は
教会にきています。みなさん、会えたかなぁ…？

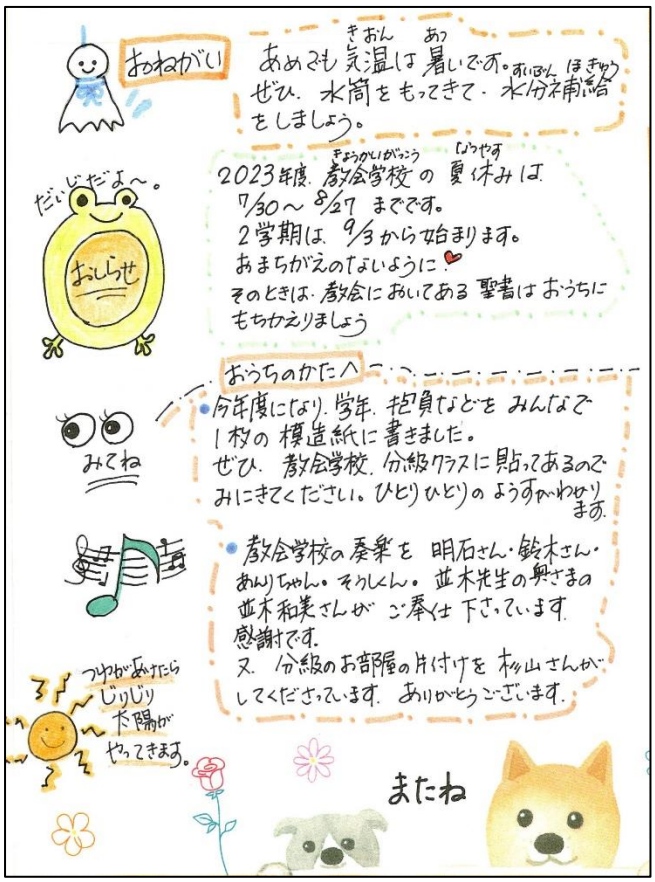
おねがい

だんだん暑い日も ふえてきましたね。
のどが かわくと おもいます。
去年と同じく、自分の水筒を もってきてください。

かんしゃ

教会学校の奏楽をしてくださっている お母さま。
1分級のお手伝いをしてくださっている お母さま。
いっしょに お子さまがたの ヘルプをしてくださる
お父さま、お母さま、ほんとうに ありがとうございます。
みなさまに 助けられて 毎週 おります。感謝です。

すっかり4月号が遅くなりました。。。申し訳ありません。
近日中に臨時号として 子どもたちの声をお届け
します。　お楽しみに。



おねがい

あめでも気温は暑いです。水筒をもってきて、水分補給をしましょう。

だいじだよ〜。

おしらせ

2023年度 教会学校の夏休みは
7/30〜8/27 までです。
2学期は、9/3から始まります。
あまちがえのないように♥
そのときは、教会においてある聖書はおうちにもちかえりましょう

みてね

おうちのかたへ

- 今年度になり、学年、担当などをみんなで1枚の模造紙に書きました。
ぜひ、教会学校、分級クラスに貼ってあるのでみにきてください。ひとりひとりのようすがわかります。

- 教会学校の奏楽を明石さん・鈴木さん・あんりちゃん・そうしくん・並木先生の奥さまの並木和美さんがご奉仕下さっています。
感謝です。
又、分級のお部屋の片付けを杉山さんがしてくださっています。ありがとうございます。

つゆが明けたらじりじり太陽がやってきます。

またね

2023ねん 6がつ
第9号
発行 金沢文庫教会
担当 石川 万奈美

すっかり新聞の発行がおそくなりました。
あめふり梅雨のどまん中になってしまいました。

おそくなって もうしわけありません

ごめんなさい おまたせしました

- 今学期より教会学校のさいごにはみことばカードをカード帳にはるようにわたしています。おやすみしたときには、その分を渡していますのでおしえてください。

- 司式の奉仕もがんばってひとりでできるようになったり、しずかに聖書のはなしをきいたり、ひとりひとりが成長できています。すごいなあとおどろくことばかりです。
前半は、モーセさんのことをまなびました。

- さいきん、ケガをしてしまうおともだちもいます。
じゅうぶんに気をつけて、でかけるときは、じかんによゆうをもってでかけましょう。

水曜集会

羽入田 毅

金沢文庫キリスト教会の集会―Church café―水曜集会（キリスト教入門）　をご紹介します。　もう一つの Church café は木曜集会（讃美歌を歌おう会）です。

水曜集会は森島牧人牧師が発起し２０１８年から始まりました。最初の参加者は７人でした。会は１０時３０分に讃美、聖書輪読、祈りで始まり１２時までです。　第一回は「死海のほとり」遠藤周作　について読書会のような形でスタートしました。そのあと同じ年の９月から第二回「イエスの生涯」遠藤周作　を章ごとに参加者交代で要約と意見を発表し、みんなで議論、森島牧師の解説・講評。大学のゼミと変わらない、しかし試験も単位も無い楽しい時間です。　２０１９年１２月には課外授業で横浜外人墓地訪れバプテスト派の宣教師を偲びました。

第三回「ブーバーに学ぶ」斉藤啓一、第四回「日本信徒の神学」隅谷三喜男、第五回「人生の四季」ポール・トゥルニエ、第六回「深い河」遠藤周作、第七回「キリストにならいて」トマス・ア・ケンピス、第八回「マルテイン・ルター」徳善義和　そして第九回（現在進行中）「再洗礼派」出村　彰に至っています。現在の出席者は９～１０名で、町内のお一人が参加されています。

教会木曜集会では定期的に外部から音楽の専門家：徳田博子先生、
飯塚三枝子先生を招いて指導を受けます
原則として各月の第二木曜日は徳田先生、最終木曜日は飯塚先生

シニアのための健康コーラス

親と子と孫をつなぐ

愛唱名歌と讃美歌

さぁ皆さん！

ご一緒に歌いましょう！

そして実感してみましょう、

声を出して歌うことの

健康効果を !!

近隣の方々にも呼びかけしています

講　師　　飯塚三枝子先生
元東京音楽大学教師

徳田先生は、発声練習を中心にコーラスの指導していただいています。

編集後記（広報委員会：犬塚）

今年度は主題聖句**「安らかに信頼していることにこそ力がある」　イザヤ書３：15**　を掲げて出発しました。新しく若き受洗者や教会学校児童、保護者も与えられました。が、教会員の高齢化に伴い、元気溌剌に他の教会員を導き励まし、活躍していたと思われるお二人の方が、突然の病で入退院の繰り返し、現在静養中。神様のご加護を祈るとともに、皆様に豊かな神様の祝福がありますようお祈りしています。